

# 総務大臣武田良太君 不信任決議案 賛成討論（2021年4月1日 衆議院本会議）

立憲民主党・無所属  
岡島一正

立憲民主党・無所属の岡島一正です。

私は、会派を代表して、ただいま議題となりました武田良太総務大臣不信任決議案に賛成の立場で討論致します。国会、行政をまっとうに変えるためです。

冒頭、新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に心から哀悼の意を表しますとともに、闘病中の皆様に心からお見舞いを申し上げます。

そして、危険と隣り合わせの過酷な状況で日々奮闘されている医療・介護従事者、そして国民の皆様に、心より敬意と感謝を申し上げます。

私は国会議員として国民に向けた決意をもって言葉を発します。今もそうです。一方で大臣は国民に向けて行政府の長としての責任ももって言葉を発するべきです。大臣の言葉は責任の証です。この点、武田大臣は責任の無い言葉で不誠実な答弁を繰り返しており総務省の長たる大臣の任にあらず不信任に値するものです。

不信任案に賛成する第一の理由は、総務省接待問題について、武田総務大臣が極めて無責任な対応を押し通した事です。菅総理の長男、菅正剛氏が勤務する東北新社が総務省の幹部官僚への接待を行い衛星放送事業の許認可や外資規制違反逃れなど、総務省が東北新社への便宜供与を図った疑いは否定できないままです。武田総務大臣は、この疑惑に「放送行政が歪められた可能性は全くない」と否定し続けていますが、総務省内とはいえ第三者委員会では、それを未だ調査中で結果も出ていません。「歪められた可能性は全くない」と担当大臣が断言するのは、第三者委員会の存在を「おざなり」と告白したのも同然。武田大臣の対応は結論ありき極めて後ろ向き、無責任です。

接待を受けた官僚をあわてて処分、異動させたものの、それは大蔵省の官官接待以来の接待官僚の大量処分という醜態です。これこそ、行政の歪みの証です。それを否定する武田大臣は無責任です。

第二の理由は、総務省接待問題質疑で、総務省の鈴木信也電波部長に「記憶がないと言え」と指示したことです。3月16日の衆議院予算委員会での東北新社の外資規制違反をめぐる逢坂誠二委員の質問で、鈴木部長が答弁に立つ際、武田大臣が閣僚席から「記憶がないと言え」と発言したとする問題がありました。3月18日の衆議院総務委員会で山花郁夫委員が、「大臣が記憶がないと言え」と指示したのかと質したところ、「口に出たかもしれない」としつつ「答弁を指示する意図は全くない」として、発言を認めた一方で答弁指示の意図は否定しましたが、3月19日

の参議院予算委員会では「誤解を与えたのであれば申し訳ない」と謝罪。「なぜか無意識で出たんでしょう」などと、要領を得ない答弁に終始しました。大臣は部下に対するこの発言が指示でないと言いつつ、国民に対して責任ある言葉での説明を一切行っていません。

第三の理由は、自らの会食の有無についても国民をはぐらかす無責任な言葉で不誠実な国会答弁を繰り返したことです。

NTTによる総務大臣経験者ら政治家の接待について、会食の有無を質された武田大臣は、会食の場を認める3月18日までの1週間も「国民の疑念を招くような会食や会合に応じることはない」と衆参で30回ほども繰り返しました。さすがに「あまり付き合いがないので黙っていた」という麻生財務大臣すら「何回も同じことを言っている。テレビで見えていたら、どんなふうにとられるのか」と苦言を呈しました。武田大臣は身に覚えがあったのか、週刊文春による発覚に備えて「疑念を招く会食」と会食の定義をくくる逃げの言葉を用意して繰り返していたのです。

その後、週刊文春の報道が出ると、昨年11月に電気通信事業者であるJR東海が招待しNTTやドコモが同席した場を認めましたが、今度は「食事は注文せず、ビール2、3杯程度をいただいた後、退席した。費用として1万円を支払った」、「同席はしたが食事は食べなかったので会食ではない」と言いはりました。しかも武田大臣は、「出席者から特定の許認可に関する要望や依頼を受けてない」と強弁し、関係業者からの供応接待を禁じる大臣規範には抵触しないと主張しました。「誤解を生んだのであれば、申し訳ない」と言いましたが、そもそも国民に生まれたのは誤解ではなく疑念です。疑念かどうか、大臣規範に抵触するかどうかと受け止め判断するのは国民であり、武田大臣ではありません。

昨年12月21日の「ドコモ「異次元値下げ」に至る舞台裏」というダイヤモンド・オンラインのインタビューで、武田大臣は「自身が料金値下げに取り組む中では、携帯事業者の人にむしろ会うべきではないと思いました。私は方向性を示した後、料金引き下げに関することでは一切会っていません。というのは決断が鈍るからです。人間ってというのは、思い切ったことをするときにはね、相手と会っちゃいかんのですよ。情も芽生えるし、そここのところは「フェア」にやっています」と語っています。昨年11月11日、NTTがドコモを完全子会社化するための株式公開買付をしていた時期に大臣が会っていたNTTは利害関係者、ドコモは携帯事業者。会っているじゃないですか。そのうちの誰かに情が芽生えて決断が鈍って、なんらかの要望を認めたのではないですか。会っているじゃないですか。インタビューの自分の言葉に責任がないじゃないですか。

武田大臣は、2018年9月、雑誌『経済界』でのインタビューでは「政治家が絶対忘れてはならないのは、声を上げない人の声を聞くことです。声の大きい人、利益

団体の話ばかりを聞いて、大局を見失うということが一番恐れていかなくちやならない」と語っています。「利益団体の話しを聞いて大局を見失ってはならない」という信条ならば、NTTなど関係業者という利益団体と不適切な時期に会食の場を共にした武田大臣は、直ちに大臣の職を辞すべきです。大臣の言葉は国民への責任の証なのですから。

武田大臣には、昨年も、私たちは不信任決議案を提出しましたが、今国会での武田大臣の答弁は、更に極めて無責任は言葉に満ちています。3月22日の衆議院総務委員会で、私は武田大臣に、大臣規範だけではなく個々の政治家の倫理の問題としても、関係業者のNTTが株式公開買い付けをする状況下で利害関係者であるJR東海やNTT、ドコモの最高幹部がそろって飲食の場に行く事自体を慎むべきでなかったか、と問いました。それに対して大臣は「利害関係者と認識した上で会食に応じた」「それぞれの大臣が自らの倫理観と節度を持って、しっかりとした態度で、また言動、行動で会合に臨むということは、私はあり得ることだと思います」と大見得を切りました。

大臣。国民、そして国民の代表たる議員の常識では、そうした利害関係者との飲食を伴う場に行かないのが、まっとうな倫理観と節度なのです。大臣規範にしても、それは、個々の大臣で対応が違ってはならないから全大臣対象の共通の規範が定められているのです。武田大臣の好きに出来るものではありません。

この大臣発言に、私は正直、がっかりしたのです。こんな身勝手なその場しのぎの詭弁で保身に走る答弁をされるのかと。大臣、残念ながら、あなたは不信任です。国民に対して大臣としての責任の証のない言葉を発し続ける武田大臣の下での総務行政の再生は望むべくもありません。あなたは、不信任です。

最後に、立憲民主党は武田良太君を大臣とする菅政権に終止符を打ち、年内の総選挙でポストコロナの時代へ向けて「党派を超えた議員の結集の下に、まっとうな政治への大転換」をする決意であると申し上げて、不信任決議案に対する賛成討論とします。ご清聴いただき、ありがとうございました。

###